

はじめに

法華寺が開創されたのは天正年間（西暦一五七三〜一五九二）後陽成天皇の御宇に開山玄妙院日什大正師、開基千藏院日慶上人として山号を上行菩薩の再誕と自覚された日蓮大聖人に因み上行山と称し、寺号は法華経広宣流布の道場として法華寺と名付けられました。

以来二十五代の住職が営々綿々と法燈を継承し、その地盤を築き、教線を拡張し、名須川町には以信院、岩泉町には妙法院、東和町には実成寺を督し、今日まで四百年余の曆を重ねてまいりました。

その間幾多の法難、迫害、災難等に遭いながら、その時々々の住職の英智、努力と総代、世話人、檀信徒の方々の抜きん出た信仰と丹精を得て乗り越えて来たものと推測されます。

このあたりのことは昭和十二年に当時の筆頭総代で盛岡市長もされた中村謙藏氏著の法華寺略誌に書かれているところですが、平成三年に開山日什大正師の第六百遠忌を迎えるにあたり法華寺も開創四百年記念行事を計画し総代会を中心として十項目の事業を立案し勸財するところとなりました。

この中に法華寺の記念誌を出版することも盛り込まれました。法華寺担徒の中から適任と思われる方々にお集りいただき編集委員を委嘱いたしました。その中から委員長を村井法一氏と定めこの方を中心に法華寺略誌を土台にしてそれ以降の五十年間の諸行事、事業、建築物、指定文化財、宗門行事等を盛り込んで全担家の方々にお届けすることに決定いたしました。

さいわい中村謙藏氏のご長男中村弘氏も編集委員に加わっていただき法華寺略誌の資料も全部ご提供いただきましたので大変有難く使わせていただきました。

ここに法華寺記念誌を出版するにあたり編集委員の方々始め多くの方々のご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。また途中亡くなられました中村弘氏、若野宗一郎氏、関武夫氏に対しまして深く哀悼の意を表します。

法華寺はこれからも歴史を重ねますので後世の方々は更にこれに加えて内容を吟味し、先人の精神・事業を伝えていただきたいと存じます。

平成七年六月七日

法華寺二十五世普照院日観誌す